

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

E. 学習・研究環境の改善

③昼夜開講、休日開講などによる社会人学生等への履修上の配慮

●北海道医療大学心理科学研究科言語聴覚学専攻

「言語聴覚士卒後研修プログラムを含む大学院」の事例

(具体的に何を実施したのか)

社会人学生に対しては、休日開校の集中講義を何度も行い、授業単位を修得させた。また、臨床症例の検討や、研究指導においては、インターネットを利用した、学生と指導教員とのメールのやりとりなどによる課題提供・学習指導、集中による臨床指導・研究指導を行い、学位論文作成を指導した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

社会人学生の人数はあまり多くないので、講義はできるだけ多くの人数が参加できる休日開校を学生の予定・希望と教員の予定・都合と合わせ調整し集中講義として行った。参加できなかった学生には後ほど、個別に別途講義・指導を行った。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

社会人学生は働きながら大学院授業・臨床指導・研究指導を受ける必要があるため、指導時間が一般入学学生に比べ限られることになるが、上記の工夫により、何とか学習と研究時間の獲得をおこなうことができた。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

F. その他

③積極的な情報提供体制の確立

●北海道医療大学心理科学研究科言語聴覚学専攻

「言語聴覚士卒後研修プログラムを含む大学院」の事例

(具体的に何を実施したのか)

言語聴覚士養成教育プログラムの重点項目である臨床技能の知識と技術を向上させるために、ビデオ教材を作成した。また、言語聴覚士養成教育に関わるシンポジウムを助成のあった3年間連続で行った。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

ビデオ教材を作成するに当たり、シナリオ作成、当事者同士の打ち合わせ、撮影他の役割分担など綿密に計画を立てて行った。このビデオ作成現場を大学院生・学生・教員にも見学・手伝いをさせ、技術の確実な習得と学習意欲向上に資するように設計した。また、シンポジウムでは、外部招待講師、現場の言語聴覚士、医療他職種の方々、教員、大学院生、学生、卒業生などの参加のもと、言語聴覚士のあるべき姿について討議した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

全国で指導的立場の方から直接、講義や撮影現場での技術解説をみることにより、学生のみならず、教員にとっても刺激的となった。また、シンポジウムでは、言語聴覚士が行わなければならない教育の上での改善点・問題点などが明らかにされ、それらの改善に向けてのいくつかの方策にもふれることができた。